

北槎聞略

卷六

庫文閣内			和書類
一八五函	一〇枚	一八三〇一號	
一	軸	二冊	

(又\*)

内閣文庫	
番號	和 18301
冊數	24 ( 6 )
函號	185 579



此書は...  
[Red seal]

[Red seal]

...  
[Red seal]

...  
[Red seal]

...



北槎聞略卷之六

淺草文庫

○官制并諸官俸銀



官制かんせいのなりの洋審やうしんを得える  
之の大抵たいてい分ぶんとし十九等じゅうくわうとしの大僚  
連職れんしやく四等しとうありし此四等しとうハ國王こわう親自みづかりの官くわんハ  
任にんトし職役しやくとし余あ路ろラシル車くるまハ加馬かばとしりふ  
六馬むまとしりふ其その次つぎ五等ごとうハ大臣だいじん國王こわうの余あ

を付し其官職小任と車小駕すふ  
四馬と月の中其次五等ハ大臣の意ハ隨と  
其の職役小任と車と充さる車小二を  
りり其下の五等ハ皆下僚の小吏也  
諸官ハ皆毎龍馬房と又食邑采地を  
年毎小銀若干を給ふ車各差を  
但他邦ハ任小執者ハ其地方の遠近  
おしり二陪三陪ハ添支銀あり何



まじり五年毎の更替あり只国王の宗室  
キニマージイと稱する者二十一家ありこれ  
のみ官祿をせふと諸官の名目俸銀の  
大略左の如し

第一エ子ラルヘリトマルセル 俸銀五萬枚

銀一枚ハ即ち當百銀錢一枚  
ナリ此方の銀六文ハあり

第二エ子ラルアンセル 俸銀二萬五千枚

第三エ子ラルポロチク 俸銀一萬五千枚

第四エ子ニルマヨル 俸銀一萬枚

以上四等六馬の車小駕と

第五ベレカゼル 俸銀八百枚

第六ホルコルニカ 俸銀七百枚

第七ポッポコルニカ 俸銀六百五十枚

第八プリメルマヨル 俸銀四百五十枚

第九左クシテマヨル 俸銀四百二十五枚

以上五等四馬の車小駕と

第十カピタン 俸銀三百六十五枚

第十一ポロチク 俸銀三百枚

第十二ポロチク 俸銀二百七十五枚

第十三クラボシキ 俸銀二百七十五枚

第十四クミラボシキ 俸銀二百五十枚

以上五等二馬の車をりりゆ

第十五セリザント 俸銀七十五枚

第十六ウシゼノアキリ左リ

第十七カプラン

第十八ソーダテ

第十九カサカ

以下俸銀定數な

...

惣と俸銀は三分ふしと四月八月十二月

三度ふバンカ金銀出入をりつとりつとりつと

五穀と産物と申絶少かりぬ秩禄皆

銀りりり官禄世及りしは右高官

大祿の人の官を罷りし死にせしむる

平民がり故ふたの國益も成ゆき

生理がかり郊外お場を設け或は舗店

と開きとれくの近人かかえ管家

置し事と執しむスクワの留守エ子

ヘルトマルルキリロギリゴネチアラズホフス

おしひポニコルニカワシレイペトロチトルン

ニノーフハ鍛冶を營みキニヤージイエ子ラル  
ヘルトマルシルギリゴイヤレクサンドルネチボ  
キンと今なる漂人を送る来りア  
ガ親のキリロハ硝子を製しエ子ラル  
アレクサンドルネチボノネチボノ水  
車と持し鋼鉄の瓦を造る此人通商の  
外國人并ハ漂流人等の事を司る  
光太まも初りト都心へ付

此人小唄水の願を心掛  
又エ子ラルアレクサンドルアンデルネチベス  
ホロコヤエ子ラルマヨルアポロスアポロスネチ  
ムンシンプーシキン商人ハ砂糖を製し  
ラルポロチクヲレポアンデルネチイガリスツロム  
兵水車あり大麥小麦の粉を磨  
おのく生理を以て民用便し

且官利をかりて畢竟新田ありて併  
發と金きをかゝる事業ふかひりすと  
ええたり

○服色并職役

官服皆哆囉呢を目の裁縫の制は  
大小の諸官大抵治おれ一尤居常  
服の官民も不定なりとらま  
女主の服下襦衣多く改機なりかし

程々の織ものを目のわらり上蓋の白木綿  
あり花紋を深入りたるものなり地合  
此方の生結りよりも於落くとも  
又中からものなりこの丈一身有半  
その上フルデといふものを掛く金あり  
送する十字架と雙頭の鷹なり七宝を  
嵌ビリマン金剛石あり飾はれを天藍色  
小本理を織する廣さ五寸計なりと



ふゆりのこの如きものあり右の肩より  
たの服は向く斜に絡みなり又紅色  
のシタを身より申すもその下は白くたの  
胸は四稜と八稜と造りたる飾りあり何れ  
も金ありビリマンを以て飾り内小圓き  
処ありとく文字あり周りに星の光芒  
のしほふビリマンを嵌りたるものなり其  
よふまはとくものを御も但先は冬は

服なり表は改機ふと裏は貂皮なり  
縁は貂皮ありとよりゴラスナレといふ鼠  
即銀糸の條の毛を縫ひけり飾りあり長  
僅小腰小玉は別は黄金あり造りしもの  
ビリマンを嵌りたる故日映とれ光輝繁爛と  
しと眼を射正しく見れば光がさき程  
なり太子皇孫等忠服は紙と大紅の  
哆囉呢を肩にラレテと掛け敷は額に

髻いんの毛を短もちろく断きり前まへの方かた一梳すお流ながりしり  
 と火あ燠あぶり鍊くわ少すくくしとさみりせをつけ再またい  
 後のちふしけと梳すならせい額いづと髻いんのり  
 ぐらぐらふりりり髻いん辨わと後のちふしけ  
 黒くろき帛まゆふくとすき別わかをい月つきのりとその他  
 諸官しよくわんの服色職役大略たの如ごとく  
 カサカ 定さだくくる服ふくさこすりしり職役  
 袴はかまの使役しやく供くわふ小底こぞ折をりの者もの

なり

ソリダテ 輕かろ卒そとなり先まへさし定さだくしり  
 職しやくり 國王こくわうの駕か小扈ここ從しゆとる者ものい  
 初服しよふく袴はかまともふ紅かうき哆囉た呢やをは外うへ套ぎい  
 緋ひ哆囉た呢やふ紅かうき緑ろくをとり長ながき腰こしふ  
 玉たまと袴はかまの長ながき膝ひざをとり白しろき莫な大だい小せう  
 の累脚るいきゃく小皂せうき皮かわの靴くつをつけ白しろき革くわ  
 糸いと帯たひをとり帯たひの前まへ小白せう哆囉た呢やなり

金めもも雙頭すゐとうの鷹たかを置おくおものとり  
頭あたまのな黄銅おうどうを以もつてののとくの造つくり  
と上うへ寛かんりりの終はつ折せつ小こ花はな紋もんを彫うけ  
四よ方かた小こ黄わう赤せき白はくの鳥とりの羽はねを束たばねのを  
一ひと額がく小こ圓えんの號ごう章しょう後ご小こ雙頭すゐとうは  
鷹たかを置おくを戴かぶき鳥とり銃じゆうを執とり駕がは  
供奉くわんぷんと又また前まへ驅かふの川がはのの初はつ服ふく袴はかま  
外あは套たもも小こ紅こうきの咳せき囉ら呢ねがの袴はかまのの丈だけ

長ながくくとと踝かかとふふるる莫な大だい小せうをを目めわわも  
皂皮そうひの靴くつを著きく袴はかまのの寸すん糸いとををて  
靴くつの底そこより引ひききししととくくああはははは氏し  
巾きん小こ紅こうきの咳せき囉ら呢ねがの長ながく  
後ご小こ垂たれく腰こしのの白しろ革くわの帶おびををあ  
右みぎの方かた小こ金かね糸いとををくく繡きうししととくく袋ふくろは  
アアヤヤはは角かく小こ銃じゆうをを入いれれ馬うまのの騎うりとと先まへ  
中ちゆう川がは其その外がわの使つか役やくの定さだめめるる服ふく

カプラン 禁門の内を穿たるものなり服

色ハソイダテとおれ〜袴は長と深ふ  
る細服の裾ハ銀のさうこの如きもの  
あり幅一寸ハ縁をさう正申ハ銀  
あり双頭の鷲を置〜袴の膝より下  
ハ両側ハ金のおかしのさうきものえ  
千鳥のけりハ少時白きうり〜句をを

着〜帽ハ黒子皮あり前ハ雞の頸  
毛をさうり〜常ハ門の内ハ右  
ハ帽をハ脱〜掛あり〜帯ハ  
白革あり右の肩より左の腰ハ  
絡い剣を掛〜把ハ鱧皮あり〜黒み  
〜の上ハ黄銅線あり〜巻ハ〜ものこ  
クンゼノアキリ互リ 諸官の属吏書筆  
の役ハ元ハ服色カプランおれ〜但

外套うしろぎの袖そでに金の糸いとを二條ふたじょうを  
たたくをいとこれを分わけ

セリサント 股色ももいろ前まえにおるく袖そでの内うち  
へり三條さんじょうがり定さだまりる職役しやくは  
但たゞゼミリマナリとて量りやう地術ぢじゆつをり  
このハ紅べにき咳せき囉ら呢ねいハ緑ろくの縁ゆかりをり  
たる外套うしろぎをき着きるがり  
クテテポシキ 此こゝより以上いじやうスタツコイ

この二等にとうへり但たゞ何なにの義ぎがりを  
詳つひらふせたハヲエシノを同官どうくわんありしが  
別べつふ貴たつきより正ま從じゆの分わりがり  
スタツコイの外套うしろぎハ紅べにき咳せき囉ら呢ねいハ魚うま百ひゃく  
の天てん鷲じゆ絨じゆの縁ゆかりをり紅べにき袴はかまがり  
ヲエシノハ縁ゆかりハ紅べにき縁ゆかりをりる外套うしろぎ  
あり袴はかまハ縁ゆかりがり靴くつの上うへハ金の鎖くわんを  
跗ふ上うへより底そこありけり繞まわり又また踝くるぶしの上うへ

の邊で幅五分計かり金の圈を二つま  
後の方めと合場合せりや五分と  
持心一らのさすふ小き車ちまをな  
先馬ふかきを入り付ふ車めと  
何つれ甚下くまきくすかりラ  
ノ兵サブラといふ刀小金の七八寸周  
かり流蘇りゅうそを掛るを佩びふ又スバカ  
といふ剣けんを佩びふがりスタツコイ

スバカのみめとサブラを佩びひ金乃  
流蘇りゅうそを掛るを佩びふがり

クラポツシキ  
ポピロチク  
ポロチク

カピタン 服色因前定りし職役しやくやくな  
ラホツカカムシマツカ等の税官ぜいぐん等  
小使せうしも

シクシテマヨル 服色因前是より 諸方の  
郡官郡官小仕路仕路らおス タツコイのマヨルこ  
ピリメルマヨル ヲエシノマヨルカリリ 按色按色は  
おれ 是より 以上ヲルデと掛掛五五を  
許許はふ金の十字十字小もここーーくピリ  
マンと嵌嵌りりものカリリ レシタを赤黒  
黄の間道間道少く幅一寸計り外外套套の  
右の紐紐の上より 第三の鈕鈕知知の孔孔

掛おかり掛おかり 其の  
ポニコルニカ  
ベレカゼル  
エ子ラルマヨル 是より 以上ヲエシノスタツコイ  
の分ちり 縁縁ハ紅縁紅縁の服服小満身満身小  
金線金線少く花紋花紋と補補ふ 袖袖小一寸  
計計の金のさへ金金三條三條めめははり  
ヲルテ金金の十字十字架架小多多くピリマン

を嵌りたりし文の幅四寸計赤黄  
黒の間道なり左の肩より右の腰  
斜に掛は格別の勲切河れ天藍  
色の木理織より緋の木理をり許さ  
おとらう

エ子ラルホロチク 服色ラルテ前ふれ  
但袖のさうぬり二條なり此二等ハ  
イルコツカニチノゴド其他諸邦の国司

小仕路らぬ

エ子ラルアンス 服色ラルテ前ふれ  
但袖のさうぬり一條なり

エ子ラルヘリトマルセル 毛も三負りしが  
近き海の方キン死し後二負し  
其人を得るもハ瀬よりさうぬり扱  
ラルテ前ふれ 但袖のさうぬり  
ヤリ アンスヘリトマルセルの二等ハ専



國政を議する事とあり故に暫時  
穀下と歌ありなり 此外五子え  
アチウタンとて内侍の臣十五負はり  
五ポロチクの内より撰み七は國王  
の寝ふすも五入る事と元は  
右の肩小金糸の繩の相指のや  
ありと長さ一尺計かりふ金鈴のつき  
たゆを掛れりとの權執をこの

ナリ 諸邦の國司郡司ふもアチウタン  
の先ハポロチククラボシキより  
のさしとて其のありとあり  
糸桶のものをかりとせ  
又ウチテリ 學士ドクトル醫官 アブをかり  
製茶月 此三官ハ官服のたの肩幅三寸  
餘長五寸銀の金の流蘇をかきふ  
のこの上ハ銀あり 皇の號章を置

年毎小俸銀の外小流獲の價銀二百  
枚たりたりとあり一匹此子士の紅哆囉  
呢小舎あり縁とさうさる外套を着  
たりと云

ポスラニカ 外國より在勤の官人なり都尔  
格熱尔馬泥亞梯郎察和蘭等とて本  
國へ通商の諸國より官人を一員ペトルガ  
小在勤站より其國より来りたり

人を支配せしむる本國より此の  
處へ官人一員を一員とて處置せ  
しむるも五年毎小更替とボル  
コルニカベレカセルの内より任ぜらるる  
勤の内のエ子ラルマヨル小准とらざり  
エ子ラルヘリトマルタル朝参の付ハセリザ  
ト二人前驅ふり川車あり付ハ四人  
六人より長ハ四尺計かしよ四五寸

こころいあしく頭ふ三骨朶を累糸を  
金漆の杖をさし 外套は緑ふ紅き緑  
をつけ腰ふ金糸の繡したるを着  
四角がり銀のメンダリ銀牌と掛り先を  
ラエンノラケイとふ即ち清朝ふ常ふ  
小麦餅のみを食いと肉合せぬ肉  
を食すとし一身をさしめし行支  
迅がとせとけりさればは職を

ゆししのゼリザントをへきしゆし外  
疾足あしく足おしり常のへき  
地帯のもの如くふ味方とあり

扱ふ小ゼラガラヒぬムラルデを世古

魯西亞國ふいかりしものかり千

六百九十八年元禄十一年小サシクトアングレウス

かり者より 初より其後千七百

十四年正徳四年小女主カテリナ千七百廿

五年<sup>享保</sup> 十年<sup>小アレキサンドル子ウスコイス</sup>

製せらまじりより三等のラルテの

心まじりかりアンテレウスのラルテの

金めと造り黒色の玻璃と雙

頭の就鳥を嵌一其嘴と爪と金

と入り兩の頭小金冠を戴き兩

翼を張たるお状なり就鳥の上小金小

碧色の玻璃を以て十字架を嵌

その上ふアンテレウスの像を架と十字

の頭毎小SAPRの四字有り先ハ

サシクト アンテレウス パトロヌス ロシマヤ

の語の字頭なり 紋の上ふ又大なり

別わりハラルテを掛り小天藍色小

木理を織り幅廣きレシタあつけて

左の肩より右の腰ふしけと斜小

佩れり又至り貴き人ハ金カ

大さのり 鑽くわんあそ 掛かのそののそく  
雙頭すわうとうの鷲じゆと十字とびはりき  
ものなり ペートルのよはのびはルテの  
ガリートとせ  
カテリナのラルテハ圓まるき金の楯たてなり  
赤色の波濤はいたうと流ながし 其上そのうへふ白しろき十  
字じゆを嵌は十字のちふ半圓はんげん形かたちを  
その後のちふカテリナの像ようなり 其その衣えハ

嬌紅きやうこう色いろと 蒙もうハ天藍てんらん色いろなり 頭あたま上うへ  
金の輪光りんこうのり ちふ緑色りよくいろの椰子やしの  
葉はをちる周まわりとし 塔た金剛こんがう石いしを飾かざ  
に十字じゆじの上うへふ別わかれの下したふ一の  
大星おほほしのり 塔た金剛こんがうのり 飾かざするの  
ラルテを佩かの幅あせしき大紅おほこうの  
ソクタの浪なみのり 縁えりをちる同おな色の  
鈕釦ねうたんのり 掛か太たの肩かたより 先まの腰こしの

向くからかへりしヨフルデハカタリナ  
第一世の女王千七百十年正徳元年都ル格ル格ル  
戦い勝り付おやと化らすこと  
アキサントル子ウスコイのフルデを金の  
十字架おハの枝わがなりし赤き波濤  
を嵌めし其の中にお武将アキサド  
子ウスコイ馬上の像を置十字の上お  
雙頭の鷲を嵌めしヨフルデハ大紅の

木理を織たるレニタあし左の肩より  
右の腰お向し掛り女帝アチチの時  
お付フルデを再終しと左の胸お  
銀あしハ後お甚光河の大星を造り  
流しとけられしヨフルデを掛り  
半ハエ子フルヨル以上切おし  
許さしりしヨフル品細おし  
の差別等ハヨフル詳りし

○醫官

官醫をドクトルといふ尚薬の侍醫ハ王子  
ラルマヨル第四等の任一六馬の車ハ駕  
其次ハベカゼルポルニカポニカ等の  
官小任と刺絡あつ法をふと見取しん医士と  
シタブレカリといふポルニカマヨルカピタ  
小任と下等の医士とレカカリといふクラ  
ポシキポロチクの官が一医科ハ内外い

分わに眼科く口科く婦人小児しんと一人あ  
かめりが一外科い製茶家あの薬局い  
總理しとこれをアピタカリといふい籠頭いを兼  
見取者をホロクマホルといふ并あポルニカ  
小任とすた諸官を負しエ子ラルの外常  
小女主の前あゆりのがが但医官の  
朝夕ま前あ侍ががが刺絡ハ年毎う  
一度のりりと施をす一はかみを茶

と有りて一 貴賤もあ皆おれ

○僧官并寺院法會

僧ハ髮を薙ぐと鬚を剃りし品級五等  
有り第一級アリヘイといふ大僧正といふ  
金きものなりムスクワハ一負ペートルボルグハ  
一負イルコツカユカテリンボルグニチノゴロト  
スキノイゴロドハおのゝ一負有り車ハ  
駕よりハ六馬を引りソーボル勅願寺あり

第二級アリヘイミンドルといふ僧正といふ  
ものなり第三級ハポロトポロトといふ僧都  
といふものなり并ハ四馬の車ハ五馬  
第四級ハポロトといふ是より以上并袈裟  
道師袈裟の媒を引り并ハ第一級  
ハマコノといふ并僧なり并ハ二馬の車  
と月ハマコノよりポロトポロトといふ肉  
食書帯を引りハヘイミンドル以上ハ



清僧がりアリヘイミンドル以下皆アリヘイ  
より官を授けり官をさうけりおの  
アリヘイの足を三夜いして半がりアリ  
ヘイハ國王トク直封<sup>チキ</sup>防<sup>カク</sup>りおのがし  
僧衣<sup>ソウイ</sup>の咳囉呢<sup>カハラニ</sup>天鷲<sup>テンリウ</sup>絨<sup>ジュウ</sup>改機<sup>カイキ</sup>等<sup>トウ</sup>ありとみ  
長く袖<sup>ソウ</sup>廣く腰<sup>ウサ</sup>より下<sup>カ</sup>お摺<sup>シ</sup>多くして  
此方の僧衣<sup>ソウイ</sup>おとく似<sup>ニ</sup>りものなり子メツ  
の僧衣<sup>ソウイ</sup>の皆<sup>ミ</sup>黒色<sup>クワシキ</sup>をぬき其外<sup>ソノト</sup>の色衣<sup>シキイ</sup>を

着<sup>キ</sup>け錦<sup>キン</sup>の加<sup>カ</sup>ぬの如<sup>ニ</sup>きものを披<sup>ヒ</sup>きアリヘ  
イハ肩<sup>カ</sup>に金<sup>キン</sup>ありと<sup>ニ</sup>號<sup>カウ</sup>章<sup>シヤウ</sup>を<sup>ニ</sup>おさラ  
ル<sup>レ</sup>テを御<sup>ミ</sup>ラル<sup>レ</sup>テハ金<sup>キン</sup>鎖<sup>サ</sup>ありと頸<sup>ケ</sup>にけ胸<sup>ムネ</sup>  
に垂<sup>タ</sup>る右<sup>ミダ</sup>の脇<sup>ワキ</sup>に菱<sup>ヒシ</sup>形<sup>ケイ</sup>の佩<sup>ヒ</sup>を掛<sup>ケ</sup>杖<sup>シヤウ</sup>を  
執<sup>シ</sup>るおれをホソソトとふ又<sup>マタ</sup>ビリマンをぬ  
飾<sup>カク</sup>るお帽子<sup>カウブシ</sup>を戴<sup>カ</sup>く何<sup>ニ</sup>も國王<sup>クワウ</sup>より賜<sup>タマ</sup>ひ  
たりす僧<sup>ソウ</sup>の鳥<sup>トリ</sup>獸<sup>シヤウ</sup>の肉<sup>ニク</sup>を食<sup>ク</sup>つて  
魚<sup>イサ</sup>肉<sup>ニク</sup>を忌<sup>イ</sup>むに平<sup>ヘイ</sup>人の持<sup>チ</sup>齋<sup>サイ</sup>ル魚<sup>イサ</sup>

肉を食ふ下りなり寺の石或は磚を以て  
砌成しり々の牆鐵を以て高さ五六尺  
厚さ一丈計りしと花紋を彫りし  
其の縁は金ありて覆輪を以て方丈より  
の外は黄銅のつくしなり臺基は石あり  
高さ三尺餘または前後の門を開く  
別は大門山門等ありなり大抵佛  
殿と鐘樓を並べ下層を以て一川よりて

其間を切めき扉を以てけし門よりして  
本人の家より高く一層之上  
殺小建の屋根  
小造り中心  
架を以て佛殿鐘樓同様にしり屋の  
周り小多し圓を以て孔を穿て鳩を以て  
下層の冬に住居ありて地爐あり煙窓あり  
下層の冬根ありなり九月より五月



千七百の佛像と下層に移し五月より九月  
に十一の層二層に移し本尊は十字架小  
磔より耶蘇の像なりしは經文のみを  
多く積りてあり子メツの寺は本尊  
なり中へ三角形を画きより掛版  
なり本殿の内へ肉体的の隅の角と鉄と  
櫛干ののこく造り花紋を彫りし  
金ありて填嵌を以てしものなり其地

の國目郡官の家族の子女内侍入女  
龍女五男は右ふま其外は隅の外ふまなり  
肉体的の左右は棚屋ののこくかまきりなり  
ありて其上へ僧羅寺多く群あり  
ありへて佛前ふまに稱名誦經とあり  
僧羅寺先と和とありのなる甚清亮  
ありて水は四身と澄とありありへて  
初ふ十二丁まの燭燈をとりて佛前ふ

供一つく次つぎ小棚上こたなの上の小僧こぞうふ三さん夜よ授まかるまかしまか祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
とと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち

四し方ほうふふ祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
持もつつ道みち師しとと同どう音おんふふ祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
執しやく事じのの僧そう提だい琴ぎんとと西せい琴ぎんとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
節せつとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
又またパールパールボルボルググのの支し那なのの寺じ何なにとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
建たつつ小こ寺じ何なにとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
建たつつ小こ寺じ何なにとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
建たつつ小こ寺じ何なにとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
建たつつ小こ寺じ何なにとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち  
建たつつ小こ寺じ何なにとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのちとと祈いのち

世帯の位と支那通事等折々  
源經念佛と云ふがごとく都の内  
家名を記しみ土地せしむる墓地に寺の  
内に入り別都ならぬの処あり僻  
郷の寺又山寺等あり寺の内葬地  
ありし家も墓地をとりりて葬  
りありしが墓碑を仰向し  
北首ありし置上面に銘を刻し貴人

此方のとくしつてしつてもをかりて碑面  
上の方小家の号章を刻みその下  
文字を彫りしつてものなり

按ふ長清福依山悟真寺小和蘭加  
比丹をルコフといふが墓あり石碑ハ  
六尺計の石を仰面小置しり兩覆  
りて碑文の上の方小号章を記し  
下小官名を刻し千七百三十七年  
元文二年

三月廿九日 フリーストランドの内ドール  
ヌムの地ふせし 千七百七十七年 安永六年七月  
二十七日 北極二十六度五十八分の地ふせし  
ホイスデスペーキといふ船中を卒す  
壽四十二歳 二个月二十日がりと記せし  
又魯西亞の碑文も大意からいふのなり  
まの海一巻の地ふせし  
○歳曆

魯西亞の年号の事なり 又支干が  
其開國より年曆を推し 年を紀し  
今茲寛政癸酉の歲 彼邦の曆數一千  
七百九十三年 小當に於て 月二の日數ル  
定むるに 年とふ大い畫の異い  
事なり 正月をゲヌワリといふ日數三十一  
日 二月をヘウラレといふ日數二十八日 三月を  
マルタといふ日數三十日 四月をアプレリといふ

日數三十日五月をマイと云日數三十日六月を  
ユニと云日數三十日七月をユリと云日數三  
十一日八月をアウストと云日數三十日九月を  
セシネと云日數三十日十月をラクと云日數三十日  
十一月をデカブレと云日數三十日都合三百六  
十五日四年毎小閏日をおくこれをウリ  
コスと云必と二月あり正月は大抵小の

方の十月末<sup>ナホ</sup>十一月の初<sup>イウ</sup>あり又日この支  
干のしきこのありポニゼニカ フプトリカ  
セレダ 左テタリニカ ピマチニツヤ スポータ  
ラスケレセニマトといふはうりセレダ ピマチニツヤ  
あちゆり日を祭りし人々精進を守り  
り祭

按る小歐羅巴諸國月日如の年曆は  
ありしれふよんを考れ魯西亜

の開國を啓元と号し一うくはあはる  
 一安永四年の和蘭曆小世夷開  
 闢より五千七百二十四年大洪水より四  
 千六十八年耶蘇降生より一千七百七  
 十五年と記号し一年數と符合  
 せしむるをえんれふを耶蘇の降生を  
 以て啓元とすり年一ざり毎一  
 耶蘇降生の 皇朝の垂仁天皇三十年 曆大陽  
 中國のしは漢平帝元始元年より

曆よりりゆれの大盡小盡の差なり  
 日月合會を朔日と号しれは上旬下旬  
 あり満月ありあり新月満月上下  
 弦あり小曆面小あり一をかり一周天  
 三百六十五度四分度の一より一と大陽の  
 行一日より一度りれは一年三百六十五日  
 三百六十五度を行四分度の一より一  
 と積り四年毎より一日の閏をおく



半がれ節氣も月こ小定とふ  
日何うて年この差の僅小朝夕晝夜と  
時刻の差のみなり大寒正月二十日而  
水二月二十日春分三月二十日穀雨四月二十日  
小満五月二十日夏至六月二十日大暑七月  
二十三日處暑八月二十三日秋分九月二十三日  
霜降十月二十三日小雪十一月二十日冬至  
十二月二十日なり冬至より第十二日と

正月元日とと此日即ち來年の冬至  
小當れなり又七曜の日て小當れ  
七值一周りなり祭り精進し七日  
り小當れなり和蘭曆小れハセダ  
ハ火星ピマチニツク金星の値也  
○時刻  
時刻ハ正時刻より晝夜を百二十刻小割  
二十四時とさしむ時の數ハ下より十二時ハ



其用法は大抵相おれ—魯西亜の字母三十  
一皆音のりくと義が—數字連綿—  
一語をり—始と一義は生と他はこと  
皇朝の假名文字のりくと一字一音小獨用  
すり半能りた但アイウエヲマエ等の字の  
一字一音小月甲海—其他べ左ガテ等の  
字は皆アイウエヲマエの韻字を配合志と  
始と一音を生とるあふ一字毎小轉—

七音をせとべとアと配合及切—とバの  
音を生—ベとイと及切—とビの音を  
生とるが如き是が—彼邦及切連綿の  
法たふ載る処のこと—されしは此方  
人々慣習せしむる事りしが容易か會得  
—難—とりて今別ふ此方五十音  
と稱しりとのふ配當—マエの二韻を添  
ふ七十音なり—其後ふ附と韻字入

横行と字頭の豎行とを相配とれ即ち  
その求る所の音を得るものも捷徑  
と記憶し句と句とを按し  
知金

バラアゴリイ等の如き三字合成の者あり  
皆一字を揚し末の韻字を合呼し  
音と成し又引呼し若し韻字を連書  
し促呼しもの字頭を連書した

少くは光の音の如きK O を合しコとカ  
Oと連書しハコとあり又日本と  
書んハニと合しニの音を生し  
II O 組合しハポとありHの字を  
單用しH II II O H と連綿しとニ  
ポンとあり等あり餘は先を以て類推  
し金  
又數目の字あり一より九のむの十ハ一

〇を加へて十ある〇は零位なり百は  
 〇二で書一十は二〇を加へてその位は  
 示と百萬といふも皆おれ本國の年  
 曆千七百九十三年を記しは一七九三  
 書と千九十三は百位を零とす  
 一〇九三と記しは皆此例を以て推  
 知ぬ  
 従と歐羅巴諸國の文字は左行横文也

左と字頭あり右の方横に連綿と  
 書たり筆墨は此方支那等の如きを  
 用りて墨の鐵漿のこく小醗造  
 筆の鵝雁等の鬃を削し墨を水  
 とぬきす等と注き書し墨の渾  
 濁しは正に鐵砂を撒し其の  
 濁を洗く筆尖損れぬとこれを  
 削し又銀鋼等より造るなり

始	A <sup>ア</sup>	B <sup>ベ</sup>	T <sup>ト</sup>
	B <sup>左</sup>	C <sup>セ</sup>	T <sup>ガ</sup>
	D <sup>デ</sup>	E <sup>エ</sup>	K <sup>ケ</sup>
	Z <sup>左</sup>	H <sup>ヘ</sup>	T <sup>イ</sup>
	K <sup>カ</sup>	L <sup>リ</sup>	M <sup>ム</sup>
	N <sup>ニ</sup>	O <sup>ヲ</sup>	P <sup>ペ</sup>
	P <sup>エ</sup>	C <sup>セ</sup>	T <sup>テ</sup>
	Y <sup>ヤ</sup>	φ <sup>フ</sup>	X <sup>ハ</sup>
	U <sup>ウ</sup>	ε <sup>エ</sup>	W <sup>ウ</sup>
	U <sup>ウ</sup>	L <sup>リ</sup>	L <sup>リ</sup>
	L <sup>リ</sup>	B <sup>ベ</sup>	θ <sup>ト</sup>
	IO <sup>ユ</sup>	A <sup>マ</sup>	⊙ <sup>ト</sup> 終

始	A <sup>ア</sup>	B <sup>ベ</sup>	V <sup>左</sup>
	Γ <sup>ガ</sup>	Δ <sup>テ</sup>	E <sup>エ</sup>
	Ж <sup>ゼ</sup>	Э <sup>セ</sup>	I <sup>イ</sup>
	И <sup>ヘ</sup>	К <sup>カ</sup>	Λ <sup>リ</sup>
	М <sup>ム</sup>	Н <sup>ニ</sup>	Ο <sup>ヲ</sup>
	Π <sup>ペ</sup>	Ρ <sup>レ</sup>	С <sup>セ</sup>
	Т <sup>テ</sup>	У <sup>ウ</sup>	Φ <sup>フ</sup>
	Χ <sup>ハ</sup>	Ц <sup>左</sup>	Ч <sup>左</sup>
	Ш <sup>シ</sup>	Щ <sup>シ</sup>	Ъ <sup>リ</sup>
	Ы <sup>レ</sup>	Ь <sup>リ</sup>	Ѡ <sup>リ</sup>
	Ю <sup>ユ</sup>	Я <sup>マ</sup>	îō <sup>ヨ</sup> 終

魯西亞國字母

<sup>始</sup> Ба<sup>а</sup> бе<sup>е</sup> би<sup>и</sup> бо<sup>о</sup> бу<sup>у</sup> бѣ<sup>ѣ</sup> 反  
 бю<sup>ю</sup> бя<sup>я</sup> бра<sup>а</sup> бре<sup>е</sup> бри<sup>и</sup> бро<sup>о</sup> 切  
 бру<sup>у</sup> брѣ<sup>ѣ</sup> бря<sup>я</sup> Ва<sup>а</sup> ве<sup>е</sup> ви<sup>и</sup> 連  
 во<sup>о</sup> ву<sup>у</sup> вѣ<sup>ѣ</sup> вю<sup>ю</sup> вя<sup>я</sup> вра<sup>а</sup> 綿  
 вре<sup>е</sup> бри<sup>и</sup> vro<sup>о</sup> прү<sup>ү</sup> врѣ<sup>ѣ</sup> вря<sup>я</sup> 法  
 Га<sup>а</sup> ге<sup>е</sup> ги<sup>и</sup> го<sup>о</sup> гу<sup>у</sup> гѣ<sup>ѣ</sup>  
 гю<sup>ю</sup> гя<sup>я</sup> гра<sup>а</sup> гре<sup>е</sup> гри<sup>и</sup> гро<sup>о</sup>  
 гру<sup>у</sup> грѣ<sup>ѣ</sup> гря<sup>я</sup> Ха<sup>а</sup> хе<sup>е</sup> хи<sup>и</sup>  
 до<sup>о</sup> ду<sup>у</sup> дѣ<sup>ѣ</sup> дю<sup>ю</sup> дя<sup>я</sup> дра<sup>а</sup>  
 дре<sup>е</sup> dri<sup>и</sup> dro<sup>о</sup> дру<sup>у</sup> дрѣ<sup>ѣ</sup> дря<sup>я</sup>  
 Жа<sup>а</sup> же<sup>е</sup> жи<sup>и</sup> жо<sup>о</sup> жу<sup>у</sup> жѣ<sup>ѣ</sup>  
 жю<sup>ю</sup> жя<sup>я</sup> жра<sup>а</sup> жре<sup>е</sup> жри<sup>и</sup> жо<sup>о</sup>  
 жру<sup>у</sup> жрѣ<sup>ѣ</sup> жря<sup>я</sup> За<sup>а</sup> зе<sup>е</sup> зи<sup>и</sup>  
 зо<sup>о</sup> зу<sup>у</sup> зѣ<sup>ѣ</sup> зю<sup>ю</sup> зя<sup>я</sup> зра<sup>а</sup>  
 зре<sup>е</sup> зри<sup>и</sup> зро<sup>о</sup> зру<sup>у</sup> зрѣ<sup>ѣ</sup> зря<sup>я</sup>

<sup>始</sup> а<sup>а</sup> б<sup>б</sup> в<sup>в</sup>  
 г<sup>г</sup> д<sup>д</sup> е<sup>е</sup>  
 з<sup>з</sup> и<sup>и</sup> ѝ<sup>и</sup>  
 к<sup>к</sup> л<sup>л</sup> м<sup>м</sup>  
 н<sup>н</sup> о<sup>о</sup> п<sup>п</sup>  
 р<sup>р</sup> с<sup>с</sup> т<sup>т</sup>  
 у<sup>у</sup> ф<sup>ф</sup> х<sup>х</sup>  
 ц<sup>ц</sup> ч<sup>ч</sup> ш<sup>ш</sup>  
 щ<sup>щ</sup> ъ<sup>ъ</sup> ъ<sup>ъ</sup>  
 в<sup>в</sup> тѣ<sup>тѣ</sup> з<sup>з</sup>  
 10<sup>10</sup> я<sup>я</sup> ѿ<sup>ѿ</sup> 終

<sup>45</sup> Та ꙗ те ꙗ ти ꙗ то ꙗ ту ꙗ тѣ ꙗ тю  
 тѣ ꙗ тра ꙗ тре ꙗ три ꙗ тро ꙗ тру ꙗ трѣ ꙗ  
 тѣ ꙗ фа ꙗ фе ꙗ фи ꙗ фо ꙗ фу ꙗ фѣ ꙗ  
 фю ꙗ фя ꙗ фра ꙗ фре ꙗ фри ꙗ фро ꙗ фру ꙗ  
 фрѣ ꙗ фря ꙗ Ха ꙗ хе ꙗ хи ꙗ хо ꙗ ху ꙗ  
 хѣ ꙗ хю ꙗ хя ꙗ хра ꙗ хре ꙗ хри ꙗ хро ꙗ  
 хру ꙗ хрѣ ꙗ хря ꙗ Ча ꙗ че ꙗ чи ꙗ чо ꙗ  
 чу ꙗ чѣ ꙗ чю ꙗ чя ꙗ чра ꙗ чре ꙗ чри ꙗ  
 чро ꙗ чру ꙗ чрѣ ꙗ чря ꙗ Ча ꙗ че ꙗ чи ꙗ  
 чо ꙗ чу ꙗ чѣ ꙗ чю ꙗ чя ꙗ чра ꙗ чре ꙗ  
 чри ꙗ чро ꙗ чру ꙗ чрѣ ꙗ чря ꙗ Ша ꙗ ше ꙗ  
 ши ꙗ шо ꙗ шу ꙗ шѣ ꙗ шю ꙗ шя ꙗ шра ꙗ  
 шре ꙗ шри ꙗ шро ꙗ шру ꙗ шрѣ ꙗ шря ꙗ Ша ꙗ  
 ше ꙗ ши ꙗ шо ꙗ шу ꙗ шѣ ꙗ шю ꙗ шя ꙗ  
 шра ꙗ шре ꙗ шри ꙗ шро ꙗ шру ꙗ шрѣ ꙗ шря ꙗ

<sup>46</sup> Ка ꙗ ке ꙗ ки ꙗ ко ꙗ ку ꙗ кѣ ꙗ кю ꙗ  
 кѣ ꙗ кра ꙗ кре ꙗ кри ꙗ кро ꙗ кру ꙗ крѣ ꙗ  
 кря ꙗ Ла ꙗ ле ꙗ ли ꙗ ло ꙗ лу ꙗ лѣ ꙗ  
 лю ꙗ ля ꙗ лра ꙗ лре ꙗ лри ꙗ лро ꙗ лру ꙗ  
 лрѣ ꙗ лря ꙗ Ма ꙗ ме ꙗ ми ꙗ мо ꙗ му ꙗ  
 мѣ ꙗ мя ꙗ مرا ꙗ mre ꙗ мри ꙗ мро ꙗ  
 му ꙗ мрѣ ꙗ мря ꙗ На ꙗ не ꙗ ни ꙗ но ꙗ  
 ну ꙗ нѣ ꙗ ню ꙗ ня ꙗ Нра ꙗ нре ꙗ нри ꙗ  
 нро ꙗ нру ꙗ нрѣ ꙗ нря ꙗ Па ꙗ пе ꙗ пи ꙗ  
 по ꙗ пу ꙗ пѣ ꙗ пю ꙗ пѣ ꙗ пра ꙗ пре ꙗ  
 при ꙗ про ꙗ прѣ ꙗ прѣ ꙗ прѣ ꙗ Ра ꙗ ре ꙗ  
 ри ꙗ ро ꙗ ру ꙗ рѣ ꙗ рю ꙗ ря ꙗ Ра ꙗ  
 ре ꙗ ри ꙗ ро ꙗ ру ꙗ рѣ ꙗ рря ꙗ Са ꙗ  
 се ꙗ си ꙗ со ꙗ су ꙗ сѣ ꙗ сю ꙗ ся ꙗ  
 сра ꙗ сре ꙗ сри ꙗ сро ꙗ сру ꙗ срѣ ꙗ сря ꙗ



Ва<sup>7</sup> Ла<sup>7</sup> Ја<sup>7</sup> Ма<sup>7</sup> Ха<sup>7</sup>

Ра<sup>7</sup> Па<sup>7</sup> Ба<sup>7</sup>

ви<sup>7</sup> ли<sup>7</sup> ии<sup>7</sup> ми<sup>7</sup> хи<sup>7</sup>

ри<sup>7</sup> пи<sup>7</sup> би<sup>7</sup>

шү<sup>7</sup> һү<sup>7</sup> іү<sup>7</sup> мү<sup>7</sup> хү<sup>7</sup>

рү<sup>7</sup> пү<sup>7</sup> бү<sup>7</sup>

ве<sup>7</sup> ле<sup>7</sup> іе<sup>7</sup> ме<sup>7</sup> хе<sup>7</sup>

ре<sup>7</sup> пе<sup>7</sup> бе<sup>7</sup>

во<sup>7</sup> ло<sup>7</sup> іо<sup>7</sup> мо<sup>7</sup> хо<sup>7</sup>

ро<sup>7</sup> по<sup>7</sup> бо<sup>7</sup>

вю<sup>7</sup> лю<sup>7</sup> ію<sup>7</sup> мю<sup>7</sup> хю<sup>7</sup>

рю<sup>7</sup> пю<sup>7</sup> бю<sup>7</sup>

вя<sup>7</sup> һя<sup>7</sup> ія<sup>7</sup> мя<sup>7</sup> хя<sup>7</sup>

ря<sup>7</sup> пя<sup>7</sup> бя<sup>7</sup>

На<sup>7</sup> Па<sup>7</sup> Са<sup>7</sup> Ка<sup>7</sup> А<sup>7</sup>

Дар<sup>7</sup> Зар<sup>7</sup> Тар<sup>7</sup> а

Ни<sup>7</sup> ми<sup>7</sup> Си<sup>7</sup> Ки<sup>7</sup> Ш<sup>7</sup>

гу<sup>7</sup> жу<sup>7</sup> чу<sup>7</sup> н

Нү<sup>7</sup> тү<sup>7</sup> Сү<sup>7</sup> кү<sup>7</sup> Ү<sup>7</sup>

дү<sup>7</sup> жү<sup>7</sup> бү<sup>7</sup> ү

Не<sup>7</sup> те<sup>7</sup> Се<sup>7</sup> ке<sup>7</sup> Е<sup>7</sup>

Зе<sup>7</sup> Зе<sup>7</sup> Ге<sup>7</sup> е

Но<sup>7</sup> то<sup>7</sup> Со<sup>7</sup> ко<sup>7</sup> О<sup>7</sup>

До<sup>7</sup> Зо<sup>7</sup> Во<sup>7</sup> о

Ню<sup>7</sup> тю<sup>7</sup> Сю<sup>7</sup> пю<sup>7</sup> Ю<sup>7</sup>

гю<sup>7</sup> зю<sup>7</sup> лю<sup>7</sup> ю

Ня<sup>7</sup> тя<sup>7</sup> ся<sup>7</sup> кя<sup>7</sup> Я<sup>7</sup>

ля<sup>7</sup> зя<sup>7</sup> ря<sup>7</sup> я

五十韻

今ユマ二韻と添く七十韻と爲す

數目の字

1	一	10	十	100	百	1000	千
2	二	20	二十	200	二百	2000	二千
3	三	30	三十	300	三百	3000	三千
4	四	40	四十	400	四百	4000	四千
5	五	50	五十	500	五百	5000	五千
6	六	60	六十	600	六百	6000	六千
7	七	70	七十	700	七百	7000	七千
8	八	80	八十	800	八百	8000	八千
9	九	90	九十	900	九百	9000	九千
10	十	100	百	1000	千	10000	万
11	十一	110	百一	1100	千一	11000	万一
12	十二	120	百二	1200	千二	12000	万二
13	十三	130	百三	1300	千三	13000	万三
14	十四	140	百四	1400	千四	14000	万四
15	十五	150	百五	1500	千五	15000	万五
16	十六	160	百六	1600	千六	16000	万六
17	十七	170	百七	1700	千七	17000	万七
18	十八	180	百八	1800	千八	18000	万八
19	十九	190	百九	1900	千九	19000	万九
20	二十	200	二百	2000	二千	20000	二万
21	二十一	210	二百一	2100	二千一	21000	二万一
22	二十二	220	二百二	2200	二千二	22000	二万二
23	二十三	230	二百三	2300	二千三	23000	二万三
24	二十四	240	二百四	2400	二千四	24000	二万四
25	二十五	250	二百五	2500	二千五	25000	二万五
30	三十	300	三百	3000	三千	30000	三万
40	四十	400	四百	4000	四千	40000	四万
50	五十	500	五百	5000	五千	50000	五万

此他<sup>この</sup>の<sup>り</sup>の<sup>り</sup>諸<sup>も</sup>體<sup>たい</sup>の<sup>り</sup>と<sup>も</sup>未<sup>も</sup>詳<sup>しょう</sup>か<sup>ら</sup>ず

○寶貨

本國鑄<sup>か</sup>の<sup>り</sup>の<sup>り</sup>錢<sup>ぜに</sup>金銀銅三種の<sup>り</sup>三種  
 の<sup>り</sup>の<sup>り</sup>大小數品<sup>すうひん</sup>の<sup>り</sup>大<sup>おほ</sup>都<sup>と</sup>十五錢以上  
 銀を<sup>り</sup>の<sup>り</sup>五百錢以上<sup>の</sup>金<sup>を</sup>と<sup>り</sup>金銀  
 二種ハペートルボルグ<sup>ペートルボルグ</sup>の<sup>り</sup>鑄<sup>か</sup>の<sup>り</sup>銅錢<sup>どうぜに</sup>を<sup>り</sup>  
 五カテリシボルグ<sup>五カテリシボルグ</sup>の<sup>り</sup>ウヂ<sup>ウヂ</sup>ス<sup>ス</sup>キ<sup>ス</sup>  
 等<sup>ら</sup>の<sup>り</sup>鑄<sup>か</sup>の<sup>り</sup>馬<sup>うま</sup>の<sup>り</sup>都<sup>みやこ</sup>の<sup>り</sup>輸<sup>あ</sup>入<sup>いり</sup>又

海島の内より鑄お延わりと月毎小  
大船ありて載送る但其元名洋銀  
を當百銀錢一枚

皇朝の銀六匁小何より一貫文ありて金  
一両ありて永錢の法を以て準とあり

金銀銅錢にも小皆純粋

雜物

板板の當百銀錢一枚重さ六匁五分合

此方通用の南鑄ありて二匁七分半の

法小準とあり大抵十七匁七分許り

相高とあり六匁の通用あり銀

の價は甚賤低きと見えたり

鈔をラセンナツチとあり銀五枚より五百枚

までの鈔あり方五寸計ありと淺魚白

のりあり銀五枚の鈔あり十枚以上あり

淡紅あり二十五枚より五百枚あり白あり

紙ガリ一皆表ふりんくの負敷を去り  
 其りふべスポロコトルチニリーフ西人裡  
 ポロルフおのく親筆の押署何旅行  
 の盤纏りふい輕便ふりく携佩  
 易きふ多く鈔を貯るなり  
 魯西亞の錢摸銘精工ハ一と模寫  
 十金一といふハ蠟墨を以て  
 磨搦一其名目秤量并お請する

此の地名おし年曆等を記し  
 左ふ附と

魚日西亞金銀銅錢圖

インビリマン

金錢 徑り九分半強 當百銀錢十枚少角は即金一兩也  
 重サ 三匁六分



面



背

千七百八十年ふペートルボルグ少く鑄る

ピマチインヒリマン

金銭 徑リ 八分弱

重サ 一匁八分

當百銀錢五枚小當



面



背

千七百八十年小ペートルホルグの鑄

マ子ノタヌルプ

銀錢

徑リ 一寸三分

重サ 六匁八分

當百錢



面



背

千七百三十二年女王アンの時小鑄

ルプ

同上

徑リ 一寸二分

重サ 六匁五分

同上



面



背

千七百六十五年小鑄

同上

徑リ 一寸二分半

重サ 六匁五分

同上



面



背

千七百八十三年小鑄

ピンデジャテコピマカ

同上

徑リ一寸一分弱  
重サ三匁五分

當五十錢ガリ



面



背

千七百五十五年女王エリサ及タの時小鑄

テワツチコピマカ

同上

徑リ八分強  
重サ一匁五分半

當二十五錢ガリ



面



背

千七百五十一年女王エリサ及タの時小鑄

同上

徑リ八分強  
重サ一匁七分半

同上



面



背

千七百九十一年小鑄

テワツチコピマカ

同上

徑リ八分  
重サ一匁一分半

當二十錢



面



背

同上

ゼーセツコニヒマカ

同上 徑リ六分半  
重サ六分三厘

當十錢なり



面



背

千七百八十五年小鑄

キリム子又メズノイデンゲゼーセツコニヒマカ

銅錢

徑リ一寸五分  
重サ十八分半

當十錢なり



面



背

千七百七十二年小エカテリンホルグとて鑄

ヒマリチニコヒマカ

同上 徑リ一寸三分  
重サ十二分半

當五錢なり



面



背

千七百六十七年ウチンスコイとて鑄

同上 徑リ一寸二分  
重サ九分二分

同上



面



背

千七百七十一年エカテリンボルグとて鑄

テワコピマカ

同上

徑リ一寸  
重サ五匁二分

當二錢ガリ



面



背

千七百五十八年小ウジンスコイめく鑄

同上

徑リ九分半  
重サ四匁

同上



面



背

千七百七十五年小エカテリボルグめく鑄

コピマカ

同上

徑リ八分半  
重サ三匁

一錢ガリ



面



背

千七百五十七年小ウジンスコイめく鑄

テシガ

同上

徑リ八分弱  
重サ二匁半

半錢ガリ



面



背

千七百四十八年小同めく鑄



同上

徑リ七分  
重サ一匁二分



面

同上



背

千七百六十年小ウジンスコイめて 鑄

同上

徑リ七分  
重サ八分



面

同上



背

千七百六十九年小ユカテリンボルグめて 鑄

ポロシカ

同上

徑リ六分弱  
重サ三分



面

二分半



背

千七百八十六年小ウジンスコイめて 鑄

同上

徑リ五分半  
重サ三分



面

同上



背

千七百七十三年小ユカテリンボルグめて 鑄

都下ありて銅錢を引取半ありて  
ましがり但ユカテリンボルグありて鑄る所  
銅錢のみ必ありてラジンスコイと鑄る所  
ハ絶く通用路とあり

○租税

租税ハ土地の廣狹肥瘠小拘も男女  
のりふ十五歳以上一人毎一年銅錢  
五百文をせし官人以外餘くの外農工商

賈皆あり 奴婢の分とこれの主人より  
せしりハ邦よりハ諸穀と産物  
りぬる米穀と租税ハせしりハ  
マコトトシグシブラツケカムシマタリ其他海鳥の  
夷人山居の民毎一年毎一人新皮二張と  
せしりハ海とせしりハ又諸島ありて海權  
海豹皮等と交易する商人ハ皮十張と  
税一張とせしりハ皮と交易する商人ハ

巨魁ハテミドフといふ者ハ兄弟ニ家チガ  
イフガリ者ノ兄弟ニ家以上五家ガリ  
又巨富ノ高賈等見存金ノ高を官小  
告ノ當百銀錢十枚此方の金一兩ガリノ税銅錢  
一文とせし其税ノ多ク少クとせしめ  
格式とりり申すガリ候見存金ハ  
高を増シ税を多くせしめ増級を  
進ん申すを御ふ者ハれいし言を減

しとく税の少く申すを欲する者ハ  
多しりハ制ハ當今より始し

○度

度ハ黄銅ちんちやうの鉄てつより造る兩頭を廣く  
中をわりく大抵兩頭の廣さ一寸ハ  
中より一寸六七分ハ一寸ハ  
皇朝の曲尺二尺三寸六分ハ一寸ハ

十三寸五分知りし一寸ハ  
皇朝の曲尺一寸四分七厘半サリ一寸を  
左リテルテ五分をポーテリテルテ半尺を  
ポーアリシ一尺をアリシといふ三尺を二間  
一これにサゼンといふ曲尺七尺令八分  
当れ五百サゼンを一里といふこれをユラスを  
よ  
皇朝の曲尺三百五十四サリ一間ハ割く

五百九十間町ヨ一町九丁五十間ハ

○量

量チをメリといふ銅カを造り状ハ竹筒の  
如くあり把ツのハ一升ハ  
皇朝と同く一強カリ其  
外分量名同等洋ウりト大抵諸物  
秤チりし一振カる量ハ多ク一尺

とくわ

○衡

衡を左チステとくわさんの端ハ錘を仕  
所緒を動しとくわから百文をプリントとくわ  
皇朝の百二文五分あり五十文をポロフト  
とくわ此方の五十二文二分半あり又プリント  
とくわ此方の四貫五百文あり諸物の  
價皆プリントとくわ何程し定るなり此外

名目洋りトとプリントより以上の秤  
とくわから法馬の状に此方の腰高饅頭  
如しとくわ

○算盤

算盤ハ十梁あり一梁十珠あり  
破子ありと造り串ハ鉄なり  
のみありとの外ハ皆筆  
算盤も何れも中なりとくわ



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in several lines across the right page of the open book. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.





